
平成25年度区民会議交流会報告
【抜粋版】

平成26年3月

市民・こども局区政推進部区調整課



◆目次

1	開催概要	2
2	取組状況の報告	3
3	7区区民会議委員の意見交換の内容 ～たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか～	6 2
4	市長挨拶	6 9
5	市長と区民会議委員との意見交換	7 1
6	区民会議交流会アンケート結果	7 9
7	当日配布資料	8 7

1 開催概要

各区の委員が集まり、互いに取組状況や運営方法の情報交換を行うとともに、相互の連携を深めることで、今後の区民会議の発展につなげることを目的に7区の区民会議交流会を開催しました。

(1) 日時

平成26年1月22日(水) 18時00分～20時10分

(2) 会場

中原区役所5階会議室

(3) 参加者数

〔委員〕80名

川崎区(11名)、幸区(11名)、中原区(17名)、高津区(7名)、
宮前区(10名)、多摩区(11名)、麻生区(13名)

〔行政〕33名

市長

区長、副区長、区企画課長、区企画課担当係長

市民・こども局長、市民・こども局区政推進部長

(事務局)市民・こども局区政推進部区調整課

(4) 傍聴者数

17名(議員・行政関係者)

(5) 内容

ア 開会の挨拶 [加藤順一 市民・こども局長]

イ 取組状況の報告 [各区区民会議委員]

ウ 7区区民会議委員の意見交換

～たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか～

エ 市長挨拶 [福田紀彦 川崎市長]

オ 市長と区民会議委員との意見交換

カ 閉会の挨拶 [加藤順一 市民・こども局長]

豊かな自然と新たな街並みが
交わるまち 中原区



第4期中原区区民会議



1 課題の把握と審議課題・テーマの選定



①課題の把握方法

- 第4期開始前に委員を集めて準備会を開催し、意見交換を実施
- 委員へのアンケート実施
- 意見交換・アンケートの結果を踏まえて課題や検討テーマ案を整理



《区民会議の様子》

②審議課題・テーマの選定

- 本会議で、委員の意見を聴取後、運営部会により課題を絞り込み・選定
(審議を進めながら第4期では3つの課題を選定)



・「課題の把握方法」について、第4期区民会議の立ち上げに先駆けて、準備会を開催し、グループに分かれて意見交換を行った。

・アンケートを実施し、検討したいテーマやその理由などを集め、意見交換やアンケートの結果で出てきた、様々な課題を整理し、幾つかの検討テーマ案にまとめた。

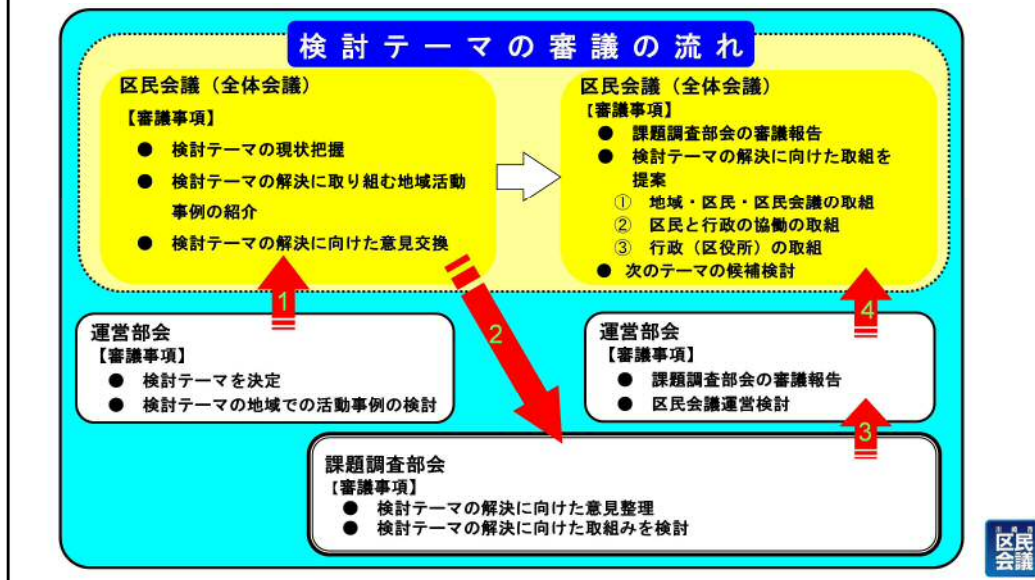
・「審議課題・テーマの選定」については、本会議で委員同士の意見交換を行った後、運営部会で課題を絞り込み、テーマの選定を行っている。

・初めに全てのテーマを決めるのではなく、審議を進めながら課題の設定をしている。第4期では3つの課題を選定した。

2 調査・審議の状況(1)



- 全体会議2回で1つの検討課題を審議
- 全体会議は年4回、第4期で計8回開催予定



・中原区区民会議の審議の進め方は、2回の全体会議で1つの検討課題を審議する。

・「運営部会」で検討テーマを決定し、全体会議で課題の現状把握を行い、課題解決に向けた意見交換を行う。

・その後、課題に対する調査や検討は、「課題調査部会」に引き継がれ、具体的な課題解決に向けた取組事項が話し合われる。その結果を、「運営部会」で確認し、再度、全体会議に上げて検討テーマの解決に向けた取組を提案し、1つのテーマについての審議を終了する。第4期では、このプロセスを3回行い、3つの検討テーマについて議論をした。

2 調査・審議の状況(2)



中原区

● 調査・審議を専門的・機動的に進めるため、専門部会を設置

部会名	運営部会	課題調査部会
審議 テーマ		<ul style="list-style-type: none"> ● 絆を深めて支え合う防災体制づくり ● 子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり ● 中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流 ～今ある中原の魅力を伝えよう～
テーマ の概要		<ul style="list-style-type: none"> ● 防災 ● 子育て支援 ● 魅力発信と地域住民交流 * 共通テーマ「新旧住民の交流」 (中原区における大切なテーマ)
調査 審議の 状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 幹事会的な役割 ● 審議テーマの検討 ● 次回の全体会議の運営方法 ● 報告書のとりまとめ及び広報 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマごとに設置 ● 地域課題についての調査・検証 ● 各委員の意見を整理し課題解決に向けた具体的な取り組みを検討



・「運営部会」は、幹事会的な部会であり、会議で取り組む課題についての検討や、区民会議の運営方法などを審議している。部会の委員は発足の時点で選任し、固定としている。

・「課題調査部会」では、区民会議で取り組むテーマごとに設けており、そのテーマについての課題を調査・検証するとともに、課題解決に向けた取組の検討を行う。部会の委員は検討課題ごとに選任し、構成する。

3 今期の取組(1)



【テーマ1】絆を深めて支え合う防災体制づくり

●取組案「防災イベントの実施」等

◆災害図上訓練(DIG)の実施(H25.8.4)

○図上訓練を実際に体験し、地域や家庭で実践してもらうことが狙い

⇒ 103名がイベントに参加



・今期の取組について、「絆を深めて支え合う防災体制づくり」では、取組案として「防災イベントの実施」などが提案され、これに基づき、昨年8月に、災害図上訓練を実施した。

・実際に図上訓練を体験してもらい、地域や家庭で実践していただくことを目的とし、このイベントには、地域の自主防災組織の方や区民会議委員など約100名という大勢の方に参加いただき、皆さん熱心に取り組まれていた。

3 今期の取組(2)



【テーマ2】子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり

●取組案「子育てふれあいカフェの開催」等

◆乳幼児の健診時に合わせて情報交換の機会を創出(H26.3開催予定)



《H23子育てふれあいカフェの様子》



【テーマ3】中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流

～今ある中原の魅力を伝えよう～

●取組案審議中



・「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」では、「子育てふれあいカフェの開催」などが提案された。

・子育て中の保護者同士がふれあいを持ちながら、子育て情報を交換する機会を作るイベントであり、保健所の乳幼児健診に合わせて、今年3月に開催する予定で調整している。写真は、前回行った子育てふれあいカフェの様子であり、中原区役所庁舎のウッドデッキを使ったオープンカフェ形式とし、ミニコンサートやおやつを試食など、交流の場を作りながら、子育て情報の提供を行う。

・現在は、「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」を3つ目のテーマとして、具体的な取組について審議し、1月28日に全体会議を審開催して審議を終了する予定である。

4 今後の取組



● 報告書の提出

- ◆ 第4期の審議結果を取りまとめ、区長へ報告書を提出(H26.4予定)

● 市民報告会の開催

- ◆ 第4期区民会議の成果を広く区民に発信するため、区内の魅力を活かした市民報告会を開催(H26.5予定)



《前回報告会の様子》



・3つの課題の審議が終了し次第、第4期の審議結果を取りまとめた報告書を作成し、中原区長へ提出する。

・区民会議の成果を広く区民の皆様にご覧いただくため、5月に市民報告会を開催し、第4期区民会議の取組内容を報告する予定である。

3 7区区民会議委員の意見交換の内容 ～たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか～

7区区民会議委員の意見交換では、交流会に参加した委員全員が8グループに分かれ、「たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか」をテーマに意見交換を行いました。

各グループにおいて、まちづくり、市民参加の現状や課題、取組に関する意見やアイデアなど大変多くの意見が交わされましたので、次のとおり紹介します。

(1) まちづくり、市民参加の現状

【参加】

- ・まちづくりのため、活動する人、自ら動く人が少ない。(2件)
- ・自分が関心の無いところに「参加」をしていただくのは難しい。

【つながり・交流・連携】

- ・高津区では高津区全町内会連合会からの委員が5名おり、実践において町内会が協力する体制になっている。ただし、町内会の活動には温度差がある。子どもを絡めた防災訓練が継続している。2つの町内会を連携させたこともある。
- ・緑地保全に関する区民会議の提言が事業提案制度を経て実践につながり、現在でも継続している。地元自治会の協力やボランティアの参加があり、参加者が増えている。
- ・区内でも、地区によって様子が異なり、現状は地区同士の交流もあまりうまくいっていないので難しさを感じている。
- ・地域で、ボランティアや地縁団体などの横の連携が弱い。

【イベント】

- ・区民会議フォーラムは、団体の動員が多く参加者が少ない。
- ・環境学習が事業提案で実現し、エコフェスタも年1回開催している。
- ・子どもたちの声を聴くため「子ども区民会議」を開催した。

【認知度・広報】

- ・区民会議の認知度が低い。(多数)
- ・中原区は再開発の関係から新住民が増加しており、まちづくりへの市民参加には、まず初めに区について知ってもらうことが必要であるため、積極的にメディアを活用し区の広報を行っている。
- ・メディアを活用して区民会議を周知しているが、記事が小さいのが難点。

【その他】

- ・過去に審議したコミュニティバスの提案は、採算性などの問題から一向に進んでいない。
- ・初期の区民会議は提言を出すまでがメインであったが、最近は、提言を地域に落としてフォローする体制をつくり、継続させていくことを目指している。

(2) たくさんの市民がまちづくりに参加するための課題

【参加】

- ・市民参加の実践には、会社経営と同様に「ヒト・モノ・カネ」が必要であり、担い手の人材育成、活動場所、予算が必要である。
- ・仕事をリタイヤした人だけでなく、子育てしている世代の人を巻き込み、スタッフ、企画者として参加してもらう。
- ・自分がやりたいことを提案できる環境が大切であり、それが実現に結びつくとなおよいが、これが難しいところでもある。
- ・市民が興味のあるテーマをどうやって設定できるか、最終的にはそこに尽きると考える。

【つながり・交流・連携】

- ・区民同士、人と人とのつながりや顔の見える関係づくり、居場所づくり。(2件)
- ・活動団体同士の交流、横の連携に対してもっと支援が必要。(2件)
- ・人と人をつなぐためには、コーディネーターが重要である。各活動団体の連携について、どのようにコーディネーターしていくことが必要かを検討しなければならない。
- ・横の連携の場を設けることはできるが、継続して団体同士が自主的に連携できるか。次につなげることが課題。
- ・高齢化が進んでいるので、活力が必要。若い世代の交流が大切。
- ・自治会や自主防災組織との連携が課題。連携のモデルケースが広がればよい。
- ・若い世代を中心に人口が増えている。地域住民をつなぐNPOはあるが、新旧住民間の溝はある。

【イベント】

- ・区民会議フォーラムにおいて参加者から、地域課題の把握や審議内容が一般の区民の感覚から乖離しているのではという意見があった。区民会議の活動内容を地道に各委員が1人から1人、2人から4人へと伝えていく必要がある。

【認知度・広報】

- ・区民会議の認知度向上を図り、課題解決に向けた実践の輪を広げていくこと。(多数)
- ・区民会議の認知度の低さ。活動を知ってもらう方法。(2件)
- ・区民会議の提案が区の計画にどのように反映されているか、知っている人はほとんどいない。ポスターやチラシの配布だけではなく、各委員が地域において直接伝えていく必要がある。
- ・各区の防災の取組などをより多くの区民に広めつつ、参加につなげていくには、区民会議自体の認知度を向上していく必要がある。

【その他】

- ・シニアに活力を持って欲しい。
- ・区民会議の調査審議内容を、区民の方へ分かりやすく提案していく必要がある。
- ・再開発が多い区としては、「新旧住民同士の交流」、「子育て環境の整備」、「増加する外国人市民への対応(特に防災関係の啓発)」などが課題と感じている。

(3) たくさんの市民がまちづくりに参加するための意見やアイデアなど

【参加】

- ・スポーツイベントやお祭りを通じて参加を呼び掛けるなど、前提として楽しいまちにしないと人は集まらない。
- ・宮前区では、担い手の育成として市民養成講座の受講をきっかけに区の魅力などを伝える冊子を作成する活動への参加につなげている。一度に大きな広がりにはならないが、継続した活動が重要である。
- ・多くの区民参加にはメッセージングが最も重要である。各区で開催している区民会議フォーラムの開催時期がまちまちであることを初めて知った。開催時期としては、審議結果の報告ではなく、審議中の時期に開催し区民を巻き込んで議論することが効果的と考える。
- ・明確なテーマを設定した方が、参加しやすい。
- ・自転車の安全対策など、具体的に区民と考える実践の場が必要。
- ・地区の中で親子のペアを作って、1つの課題に対してチーム制で何か活動してもらおう。
- ・ボランティアを有償にすれば市民がまちづくりに参加する意識が高まる。
- ・市民活動団体などの日常的に地域でつながっている人たちがフォーラムなどを通じて、更に他の人たち（他の団体）とつながっていくこと（ネットワーク化）が市民の参加を広げるきっかけになっていくのではないか。

【子どもの参加】

- ・子どもが参加するとその親も参加する。子どもを巻き込んで自治の活性化につなげるのがよい。
(3件)
- ・エコ対策など、小中学生などと一緒に活動することにより、子どもたちの興味・関心を引いていく。
(2件)
- ・中学校においてDIG訓練を行い、生徒にその成果を家庭に持ち帰ってもらい、家族で話し合うことをお願いしている。
- ・子ども会を活用できたらよいと思う。中学生の力を借りたい。
- ・夏休みの学生を巻き込む。

【つながり・交流・連携】

- ・「まちゼミ」を通じて、地域を知ったり、人とのつながりが生まれたりする。(2件)
- ・親から子どもに伝わるので、親の教育が必要。親と子どもと一緒に育っていくと思う。(2件)
- ・幅広い世代が集まる場所が必要。(2件)
- ・団体同士の連携を作るコーディネーターを育成する。
- ・区ごとの課題だけでなく、市全体の課題（ごみ収集など）も区民会議の名前で啓発活動する。
- ・他区の「区民会議」と「まちづくり協議会」の連携の話は参考になった。市民活動団体が比較的多い区なので、区民会議と積極的に連携していけるといろいろなことが実現できるように感じた。
- ・お祭りのお囃子では後継者不足が課題となっていることから、幼稚園児から指導をしている。(子どもへの意識づけが大事)
- ・交通関係は、警察との連携が必要。
- ・委員が所属団体に審議状況を報告し、課題解決方法の検討や取組を、所属団体と共に行う。

- ・これまでのつながり（人脈）を生かし、お付き合いでも催し物に来ていただくなど地道な努力をしながら、「どのように広げていくか、引っ張り込んでいけるか」が大切である。

【イベントの活用】

- ・区民祭に区民会議のブースを設けてPRする⇒各団体の役員が役割を兼ねており、人材不足が課題。
(3件)
- ・餅つきなどイベントの参加がきっかけづくりになる。
- ・街ゼミなどの仕掛けを行うことできっかけづくりになる。
- ・団体の新年会や賀詞交歓会に、宣伝するため区民会議として出席してはどうか。
- ・報告会、フォーラムで区民との話し合いを進めていく。
- ・多くの興味や関心を引き出せるようにするため、区民会議フォーラムの開催に当たっては、テーマを小さく細かく分ける方法なども考えられる。
- ・区民会議審議に当たり、アンケートなどで多くの区民意見を集めるとともに、報告会により区民と課題や審議内容などを共有する。

【認知度・広報】

- ・市民のボランティア意識を高めることが必要⇒広報力の向上。(地域メディアの活用が有効)(2件)
- ・区民会議のいい取組を知ってもらうために、掲示板に名入れをしたり、成果があった取組には区民会議名をつけて広報する。
- ・任期満了後の委員が、区民会議の「応援団」として、提言を受けた取組の推進役になるとともに、区民会議をPRする役割を担い、活動の輪を広げていく。
- ・区民会議発の取組(子育てフェスタ)を実施するにあたり、自主グループや保育園などに委員が直接出向き、顔の見える関係を築いて参加を呼び掛けている。
- ・自転車事故防止などにはイベントなどの機会に実演で啓発することがよい。
- ・小学校区レベルでの防災マップづくりを区民会議が提言し、各避難所運営会議において、それぞれ独自の防災マップづくりに取り組むなど、提言を地域でより具体的な形で実践することが、地域課題解決と認知度向上につながる。
- ・区民会議審議を受けた成果物(防災チェックシート)を全戸配布することで、認知度の向上にもつながる。
- ・まちづくり推進組織が活発であり、更に地域でボランティア活動が多数展開されていることから、区民会議がこれらをつなぎ、課題解決の取組へ結びつけることができれば認知度向上にもつながる。
- ・区民会議の認知度向上のためには、「防災」の切り口が興味を持ってもらいやすいと感じている。

【その他】

- ・啓発やリサーチなど、委員自身が会議室の外に出て活動すること、内にこもらず参加し、行動することが重要。(7件)
- ・あまり堅苦しくならないよう、区民会議の傍聴を呼び掛けたり、テーマごとに関心ある人に集ってもらって名刺交換するくらいから始めたらいい。(2件)
- ・経験のあるリーダーと一緒に取り組むことが必要である。(2件)
- ・友達が友達を誘うサイクルが生まれるとよい。大人の活力を見せると違うと思う。(2件)

- ・団塊の世代が、元気に地域で活動できる仕組みづくりをする。
- ・市民が市民の役割を理解すること（学ぶこと）が必要である。
- ・区民会議の提言が予算化され実現されることが大事である。
- ・区民会議が活動の担い手の人材育成を行う。
- ・まず提案しやすい環境の整備が必要で、それらが実現に結びついていくと提案のしがいがあり、参加につながっていくであろう。そのような意味では、政令市における「総合区」が話題となっているが、予算や人事など区長権限の強化により、市民からの提案を実現しやすい環境にしていく仕組みが必要である。
- ・市民の参加がひろがるためには、興味・関心を持てるような「きっかけづくり」が大切である。若い人の参加を進めようとしている他区の取組は参考になった。
- ・市民が時間や労力をかけてつくりあげた区民会議の提言が「どのように生かされ、それによってどのように変わったのか」が大切であり、この部分が「見える化」されることが、次の市民参加につながるのではないか。
- ・本日の交流会で出された意見交換の内容やアイデアなどをどう活用し、次につなげていくかを考える必要がある。
- ・区民会議は、市民に近いテーマを検討し、関心を持ってもらうことが必要。

(4) その他

- ・コミュニティバスは、幸区（ラゾーナ）⇔川崎区内のように区間の連携が必要。（2件）
- ・コミュニティバスについて提言しても実現しない。コミュニティバスの採算性は難しいので、市の支援が必要。（2件）
- ・各区の委員との意見交換を楽しみに参加したが、昨年と同様に各区報告に時間がかかり、十分な意見交換ができなかった。開催時間を早めるなどの工夫が必要である。
- ・引越し転入者に自治会加入の案内をして欲しい。
- ・区民会議の知名度は低い。理由は成果があまりないからだと思う。
- ・長尾台地区では、旧住民だけでなく新住民の声も上がり、試行運行が実現した。コミュニティバスの実現には、法律やコンソーシアム（2つ以上の個人、企業、団体、政府などからなる団体）を組んで補助金を得るなど、地道な取組が必要。
- ・コミュニティバスの実験をしているが、実現していない。
- ・外国人市民向けパンフレットの作成を進めているが、「やさしい日本語」と「日本的感覚」は違うため、難しさを感じている。
- ・外国人市民向けパンフレットの作成については、日本人がつくるから難しく、外国人市民を巻き込み、づくり手となってもらえるとよい。
- ・防災の問題については、家庭ごとや区ごとに危機意識を持っていることはよいことであるが、全市の問題としてBCPなどを考えておく必要がある。
- ・区民会議で見学した耐震工事について、DVDにまとめて広めていきたいと考える方がいる一方で、予算面などで難しいという方もいるため、それをどのように広めていくかが課題と感じている。

4 市長挨拶

皆さんこんばんは、市長の福田でございます。

今日は平日の夕刻に皆様に、こうやって川崎市内の全部の区民会議の委員の皆様にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

皆様方には、日頃から主体的にまちづくりに参加していただいておりますこと、心から感謝を申し上げたいと思っております。

就任以来まだ2か月ちょっとでありますけど、私も選挙の時からずっと申し上げているのは、とにかく市民参加のない所に良いまちづくりというのはあり得ないのだということと言い続けておりますし、また、今もそういう思いで市政をお預かりさせていただいております。

今、少しの間でありましたけれども、各テーブルの中の議論を少し聞かせていただきました。どうやって市民参加を求めていくのかというのは、本当に区民会議で皆さんのやっていただいている日頃の悩みであると思えますし、行政としてもずっとずっとこのことを言い続けて、どうやったら市民に参加してもらえるのかということ、長年に渡って課題になっていると思えます。

今日は少しの時間でありますけれども、是非皆様方と意見交換させていただいて、どうやったら市民参加を促すことができるのか、これをやれば全てが解決するという事はないと思えますが、しかし、たゆまなく努力というものを続けていかなければいけないと思っております。

新年になりまして、色々な所で私は申し上げてきているのですが、幸福学の話というのがございまして、実は年始のテレビ番組で見たのですがけれども、人間が幸福に思うということを科学的に研究している世界の研究機関が、世界で何万人もの人たちを研究していて、三つの共通している要素があって、その一つは人と人との関わり合いが深いということがまず人間の幸福と思うことの一つだそうです。

二つ目はボランティア活動であるとか、人の何か親切にしようということを行ってできているという人が、二つ目の要素。

三つ目の要素は、日々の生活だとか、あるいは仕事だとかということに、一つ一つ集中できている人。この三つの要素全て幸福感度が強い人が共通していることなのだそうです。

私は、川崎を最幸のまちにすると、最幸は、最も幸せなというふうなこと意味でのまちにする。この幸せな尺度というのは、行政が決めるものでもありませんし、一人一人が自分の価値観の中で、幸せだなというふうに思うことだと思うのですが、この人と人とのつながりを深くしていく、あるいはボランティア活動というようなものに参加していただい

て、あるいはまちづくりに参加していただくということが、すなわち一人ずつが、幸福になっていく、その連鎖を生むんだと、そういうサイクルを生むんだと思います。

そういった意味で区民会議の皆さんは、本当に主体的に人を巻き込んで、巻き込んでというふうなことをやっていたらということ、本当に幸せに何とかしようという、自分たちのまちだから幸せにしようという取組を本当に一緒にやっていたら、心から感謝申し上げたいと思っております。

今年、市政90周年の節目の年を迎えました。

人口が145万人を、ついに今年の1月1日に突破したということでありまして、人口が大きく増えていく、発展はしていますが、これに伴ってその地域の成熟さというものをどう作りあげていくのかというのが、これまでの課題でもありましたし、これからのもっとも大きな課題になっていくというふうに思っております。

そういう意味で先程の議論を聞いていましたら、抽象的に参加して下さいという話ではなくて、もっとテーマを絞って具体的に市民の皆さんが、どんなことを憂えているのか、あるいは、必要だと思っているのか、あるいはつながりたいと思っているのかということが、ターゲットに絞ってやっていくべきではないかというお話もどこのテーブルから伺いました。そういう知恵とアイデアを、こういう交流という場所で意見交換できれば、大変有意義だというふうに思っております、今日はどうかよろしくお願い申し上げます。



5 市長と区民会議委員との意見交換

〈高津区遠藤委員〉

川崎は横浜と東京に挟まれた地域です。横浜の中華街はすごく有名です。東京も有名です。挟まれた川崎はみんな通過してしまうのです。川崎に寄って行かない。これは将来すごく川崎が悪くなるのです。

何か川崎にもっと魅力がないかと、いっぱいあるのではないかと。川崎大師もあるし、川崎の駅前もあるだろうし、何で川崎に寄らないのかと交通の便もあるだろうし、その辺の点をもう少し市長に考えていただきたいと思うのですが。

〈麻生区村主委員〉

市長は就任されて初めて区民会議の集まるところで、区民議会の実情を見ていただいたと思うのですが、区民会議も今、4期目になっていて、前の市長がつくられた仕組みだと思いますが、蓄積があって川崎もいろいろな地域性がある中で、各地域・各区の区民会議が地域の課題を超えて取り組んでいるわけですが、4期目となって発展性の面もあるが、今までの成果が十分生かされていないというのがありますし、マンネリ化しているという面もあろうかと思えますし、それらのことについて区民会議のメンバーも自分たちで解決していかなければいけないと思えますが、市長さんとしても区民主体の市政を展開される中で、区民会議をどのように発展させていくお考えなのか、是非伺いたしたいと思います。

〈宮前区大村委員〉

区民会議は非常に知名度が低いと評判なのです。

これは、なぜかという提案書は非常に立派なのですが、実績が少しも上がらないという現状がある。それは皆さんの中にも感じているのではないかと思うのですが。

全然ゼロとは言いませんけど、これを今後どうやっていったら効果的に実績が上がるかというのが大事だと思います。以上です。

〈市長からのコメント〉

まず、遠藤さんからいただいたお話で、川崎の魅力みたいなものをどうやってアピールしていくかというような趣旨だったと思います。

今日、実は小学校・中学校の子どもたちが「川崎の魅力というものについて」をテーマにした作文コンクールがありまして、その表彰式がありました。15人位の表彰者がいらっちゃって、その作文を私、拝見しました。そうしたら、子どもたちは、川崎の魅力のものすごく良く知っていると思いました。実は分かっていないのは大人の世代の方が分かっていない。皆さんは、すごく分かっておられるのだろうけれども。

働き盛りといわれる世代が、まさに仕事に行って帰ってくるということを繰り返しているお父さんの世代が魅力を一番分かってないと思います。

川崎は7区あって、7つそれぞれに魅力があると思います。その魅力を市外にアピールしていくということがすごく重要なのですが、一方で、その市民の中に自分たちの足元にこんなに良いものがあるんだということを再発見してもらうことの方が、はるかに僕は重要だと思っていて、そういう意味でさっきちょっと言いましたけれども、90周年の記念に合わせて、この地元のことを再発見するというに私も努力していきたいと思えますし、是非皆さんのお力をお借りしたいと思っております。

それと私は職員にも言っているのですが、川崎市はせっかくいろんな良いことをやっているのだけれども、ちょっとアピール下手というふうに思う部分があつてですね、それはマスコミを通していろいろ伝わっていくことも多いものですから、もう少しいいアピール方法というのを職員と一緒に考えていこうと思っております。

それと、村主さんともう一人の方、言っていた方ですが、同じようなお話だと思うのですが、区民会議のやり方ですが、まず私も宮前区の区民、宮前区出身なのですが、以前県議員を務めておりましたので、そういう意味では、区民会議に参加という形でこれまで参加もしてまいりました。そういった意味では全く知らないというよりも、参与として関わってまいりまして、そういった意味で私も知名度不足は否めないなど、区民の皆さんが区民会議は何なのかということが分かっていない。どういうことをやっているのかも分かっていないというのは、これは少しさっきのアピールの話につながりますが、工夫していかなければならないと思っております。

それと、実行性のところですけども、これも皆さんいろんなテーマ、いい提案をしていただいて、それを最終的にどうやって実行して、区民に実際に実現させて、こうなんですというふうに動かさないと、なかなかその知名度がついてこない。要するに、そのサイクルがうまく回らないと思います。

そういった意味では知名度だけじゃなくて、どうやって実行性を担保していくのかということ、これから区への分権も進めていきますが、どういうふうな形で、予算の方の話

も含めてこんな形でできるのかなというのは、今、考えている途中で明確な答えが出ておりません。

しかし、今後、新たな川崎の総合計画というものを作っていきます。総合計画は、今年なるべく早い段階からじっくり一年半くらいかけて作っていくわけですが、そのプロセスの中で、市民の皆さんに参加していただいて、皆さんにも当然参加していただいて、どういう区民会議の位置付けだとか、あるいは市民参加の位置付けをどうしていくのかというプロセス段階から、ちゃんとやっていこうと思っております。

明確な答えになっているかどうかはあれですが、以上です。

〈幸区古場委員〉

今、市長が話された中に私が言いたかったことがかなり含まれておりますので、価値が下がっちゃったなと思いますが、発言します。

私は、区民会議が自分たちの役割をしっかりと理解して、それに専念するのが一番いいんじゃないかと思います。人を動かすというのも、一つのきっかけになるのが区民会議の役割だと思います。

例えば、個々の具体的なテーマや何か、それをやるにしてもすべて区民会議の委員がやるのではなくて、人たちがやればいいんですね。多くの人たちが参加してやってください。だから、こういうテーマについてやろうよというのは大事なことです。

そういうコンテンツも必要だけれど、プロセスとしては、どうやって人を動かすのか、しっかりとメッセージできるようなコンセプトをよく練りこんで、それも短時間で練りこむ。そしてそれをメッセージとして、様々なところで一つや二つではなくて、例えば、報道メディアみたいなのもいいかもしれませんし、人を集めてやるのもいいかも知れませんし、口コミだったってすごくいいかもしれない。

それらを全部まとめていっぺんでやるみたいなやり方をね、やってみたいというふうに思います。

〈宮前区大槻委員〉

今、この懇談会でもお話したんですけれども、災害問題ですね、これは個々の個人の災害対策をどうするかというようなことをいろいろ語られているわけでありまして、都市機能としての災害対策ですね、これをどうするかということを十分考えていかなければならないのではないかなと、企業ではBCP、ビジネス・コンテュニティ・プランということいろいろ言われておまして、そういうものに対する対策というものを今盛んに訴えられているわけでありまして、都市機能としてもですね、どういうふうに分散してですね、災害時に対応できるような都市構造にしていくかというようなことが非常に重要ではないかなというふうに思うんですね。

例えば、川崎区に生産地区が非常に集中しているわけでありまして、ゼロメートル地帯、そういうところに対してですね、我々宮前区あたりはですね、海拔の高いというようなところも利用しながらですね、各区としてどういうふうに機能分担していくのかというところを、やはり少しずつ考えていくべきではないかなというふうに思いますので、よろしくお願いたしたいと思います。

〈麻生区金光委員〉

ちょっと意地悪な質問ですけど、今、川崎も同じだと思うのですが、少子高齢化が進み、そして2050年くらいになると日本全体の人口は8,000万人位になります。

それで、その時点での出生数がだいたい40万人位になるといわれています。

これは、川崎市と全く同じだと思うんですね。そういうこれからの長期的なことを見たときに日本の全体の活気が非常に低下してくる。老人が増えて、若者が少ないという日本の情勢が出てくると思うのですけれども。

川崎も全く同じだと思います。で、そういうようなことをして、麻生区では、若者が住みたくなるようなまちというような形のテーマでもって、こういう問題に取り組んできたんですけれども、今後、この少子化を止めていくためにはですね、市長として、川崎市の中でどのような対策をとって、どのような形でもって出生率を上げていくのか、ちょっとその辺のところを考え方をちょっと教えていただければありがたいなと思っているんですけれども。

〈市長からのコメント〉

まず、古場さん、ありがとうございました。生き生きしていて凄い意気込みですね。ありがとうございます。意気込みを受け止めさせていただきましたというふうに思います。

それと大槻さんからBCPの話もありましたけれども、都市として、どう防災機能を強化していくか、何というのでしょうか、防災に関して言えば御存知の通り、自助・共助・公助とあり、公助のところというのは、特に行政でやっていかなければいけないところですね。ここは、先程のおっしゃった海拔が低いところ、津波の対策のところというのは、これはもうやらなければいけないハードの部分というのがありますから、そういうことをやっていくというのは、もう計画になっています。

それから例えば、これから道路とかですね、周りに建っている耐震性が低いビルが倒壊する恐れがあるというものに対する補強みたいな話、耐震工事といったもの。これはもう国の法律でもそうになっておりますし、実際としても、しっかりそれは対応していかなければいけないと思っております。

ですから、そういったハードの部分は、市として、行政としてしっかりとやっていかなくちやいけないことは、これは当然の話でありますけれども、一方でその自助のところ、例えば麻生区では、こういった防災の取組なんかをすると、非常に関心が高い。あるいは高津区でも防災の、先程お示しいただきましたけれども、チェックリストみたいなものを作っていて皆さんに喜ばれている。

こういった関心の高い所の自助の部分というのは、更にやはり皆さん一緒に啓発していかなくちやいけないし、実際に、具体的に例えば水の備蓄はありますかというアンケート調査をすると、3. 1 1の前と後では、飛躍的に備蓄している人は増えています。

ただ、家具の転倒防止を本当にやっているのかというと、まだまだそうでなかったり、家の耐震補強ということもなかなか進まなかったりとか、そういう具体なところに行くともまだまだ進んでいかない難しさというのは、やはり相当やっぱり啓発していかなくちやいけない。周りのとなり近所で、あなたこういうふうに行ったのとかっていう、あるいは地区ごとにやっていくという細かい作業も必要だと思っておりますので、行政のやるべきところとそれから住民の皆さんと一緒にやっていくところと、啓発も含めて、ちゃんと分けてやっていかなくちやいけないなと思っております。

それから、金光さんの少子化対策の出生率を上げるためにどうすればよいのか、これは国を挙げて大変難しい課題でありますけれども、私の選挙での最大の公約の一つでありますのは、待機児童の話で、これも一つです。

待機児童対策で保育園を作ればこの少子化対策が一部進むかもしれませんが、出生率が飛躍的に増えると言えば、そうではないと思います。

しかし、僕は、心持ちとして聞いていただきたいのですが、昔、川崎は公害のまちであ

ります。それを克服していく、その当時、その企業の皆さんが、公害対策なんて経済効率からいったら全く合わないから、別にやらなくたっていいだろうというふうな感覚で物事をとらえていたと思います。最初の頃ですね。

しかし、それを怠った企業は、間違いなく取り残された。そして、発展しなかった企業だと思っております。

そういった意味でピンチをチャンスにじゃないですけど、これから、こういう時代になることを見越して社会全体で、取り組まなくちゃいけないと思います。

ですから、少子化というのは、女性が働けない、働きづらい環境というものを作っている。これが、少子化を招いている要因の一つですから、そういった意味で、地元の企業にも昨日もそういう話がありましたけど、地元の企業になるべく、子育て、一緒にお父さんにもやってもらえるように、そういう休暇の制度もだいぶ出てきたけれども、もう少し早く家に帰れるように地元企業にも呼びかけてくれればといったお話もありました。ですから、行政や企業や市民がそういうマインドを持ってやっていかなければならないなと思っております。

とにかく、この少子化というのが、私たちのライフにとって最大の課題だと、最も危機という思いを、みんなで共有してやっていかななくちゃいけないと思っております。

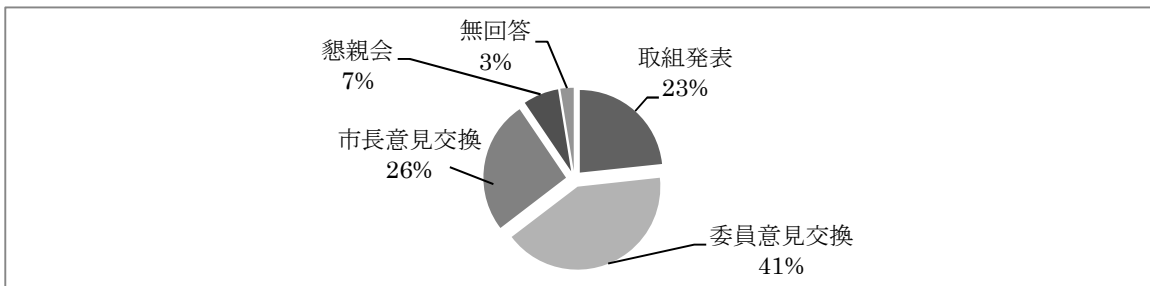
6 区民会議交流会アンケート結果

参加者数： 80 名
 回収件数： 67 件
 回収率： 83.75%

(1) どの企画に期待して来場したか(複数回答可)

(件)

取組発表	27
委員意見交換	48
市長意見交換	30
懇親会	8
無回答	3
計	116

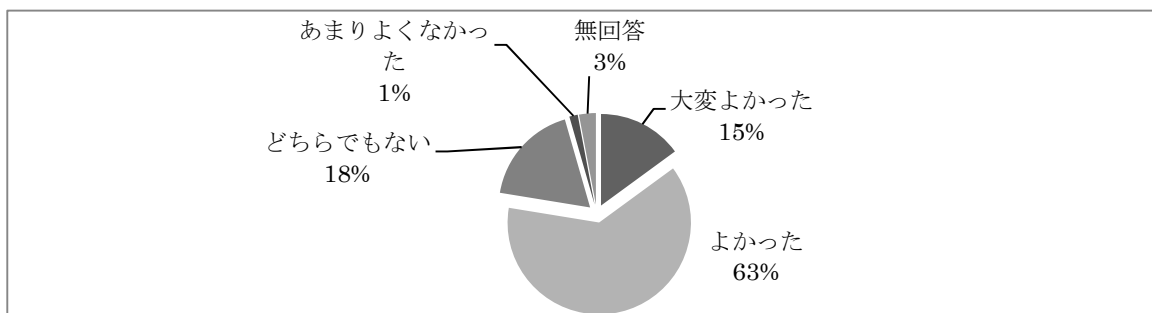


(2) 交流会の企画についての感想

ア 交流会(全体)

(件)

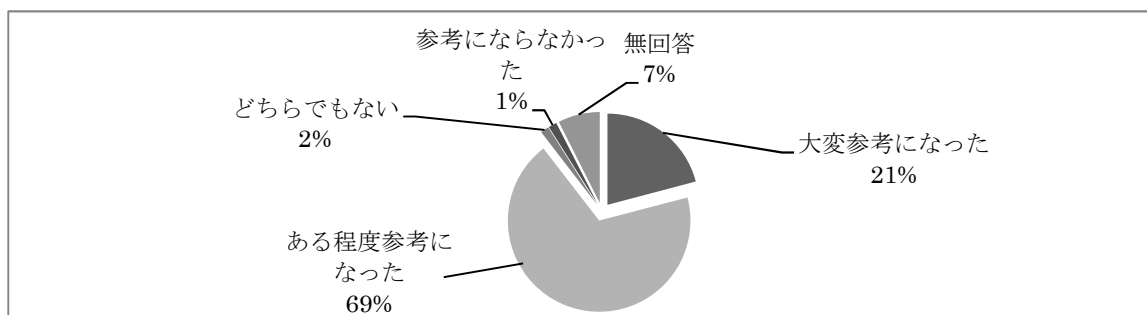
大変よかった	10
よかった	42
どちらでもない	12
あまりよくなかった	1
無回答	2
計	67



イ 取組発表

(件)

大変参考になった	14
ある程度参考になった	46
どちらでもない	1
参考にならなかった	1
無回答	5
計	67

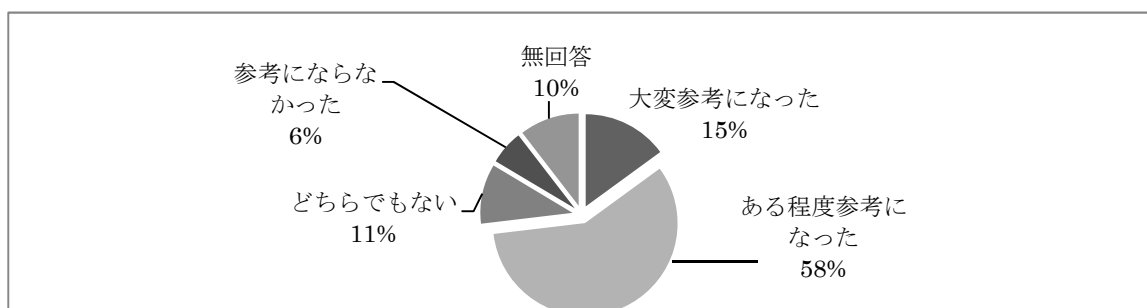


ウ 委員意見交換

(たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいかについて)

(件)

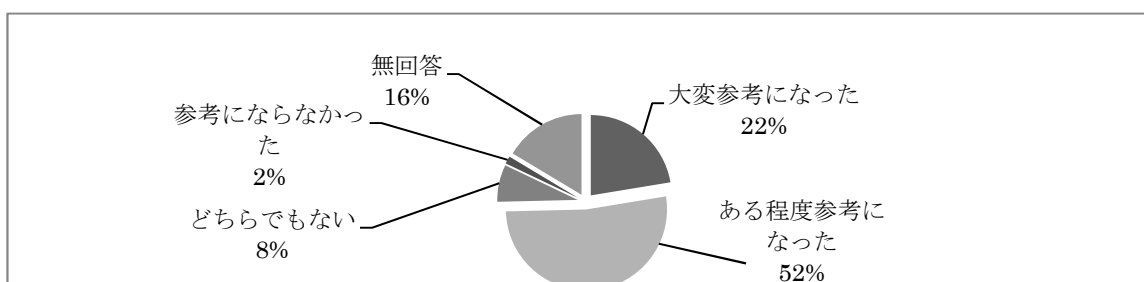
大変参考になった	10
ある程度参考になった	39
どちらでもない	7
参考にならなかった	4
無回答	7
計	67



エ 市長意見交換

(件)

大変参考になった	15
ある程度参考になった	35
どちらでもない	5
参考にならなかった	1
無回答	11
計	67

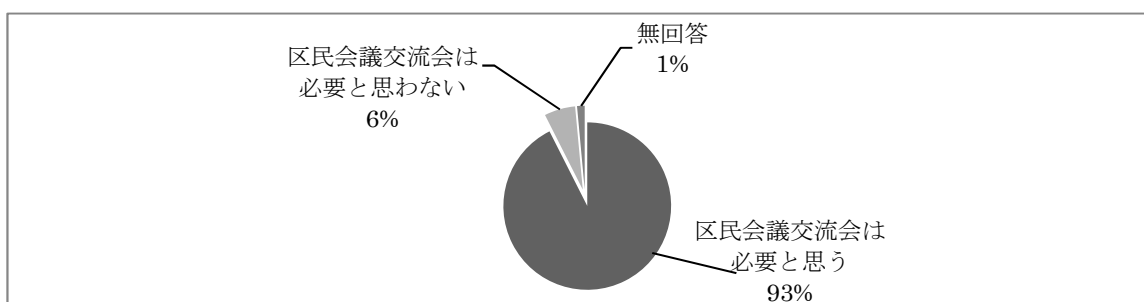


(3) 交流会のあり方について

ア 区民会議交流会の必要性について

(件)

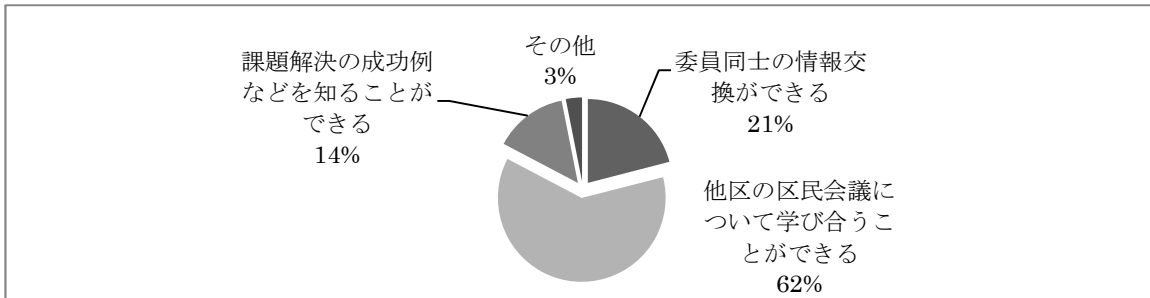
区民会議交流会は必要と思う	62
区民会議交流会は必要と思わない	4
無回答	1
計	67



イ 区民会議交流会が必要と思った理由(複数回答可)

(件)

委員同士の情報交換ができる	34
他区の区民会議について学び合うことができる	100
課題解決の成功例などを知ることができる	23
その他	5
計	162



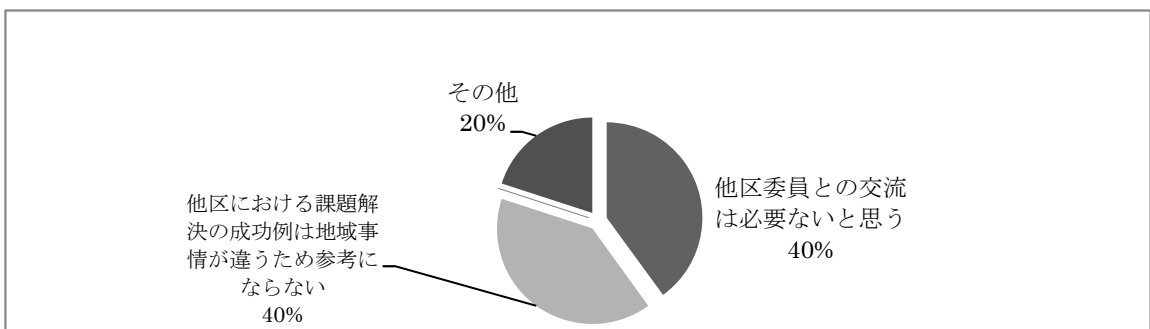
(その他)

- ・年1回ぐらいは、時間を取って聞く機会のため必要
- ・必要と思うが、交流会の成果も必要
- ・提言された事項がどのように実施されているかことも情報交換したい。
- ・他区の取組が分かる。
- ・何分も時間が少ない。不消化でした。

ウ 区民会議交流会が必要と思わない理由(複数回答可)

(件)

他区委員との交流は必要ないと思う	2
他区における課題解決の成功例は地域事情が違うため参考にならない	2
他区の事例を他の方法で知ることができる	0
その他	1
計	5



(その他)

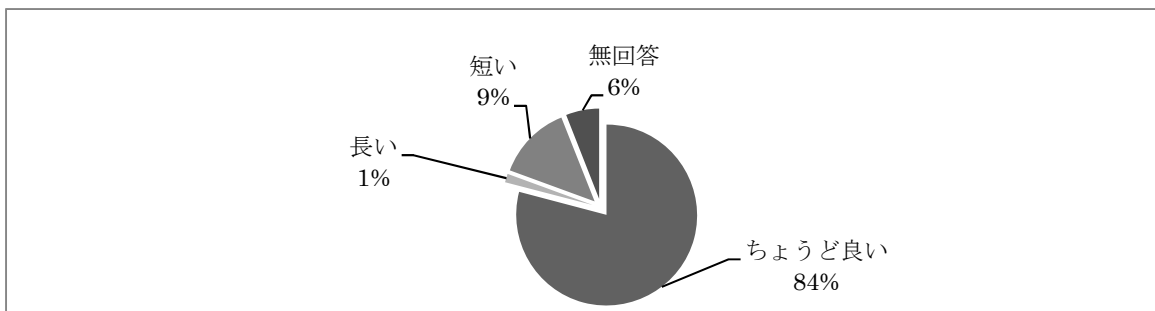
- ・今回と同じ内容なら必要ない。大幅な見直しがあれば、必要かもしれない。

(4) 区民会議の任期について

ア 委員の任期(2年間)について

(件)

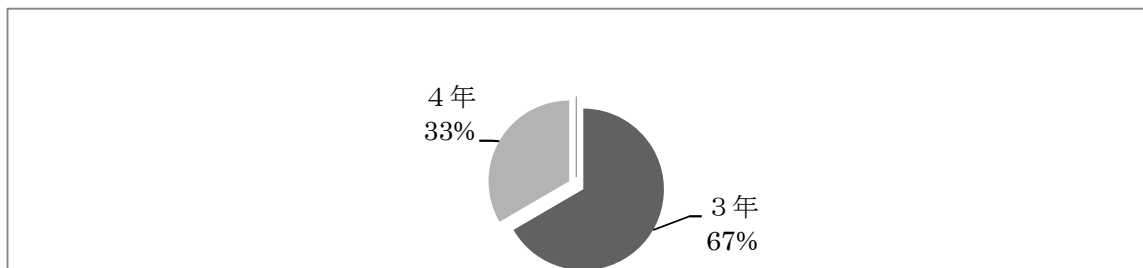
ちょうど良い	56
長い	1
短い	6
無回答	4
計	67



イ 適当と思われる任期の年数について

(件)

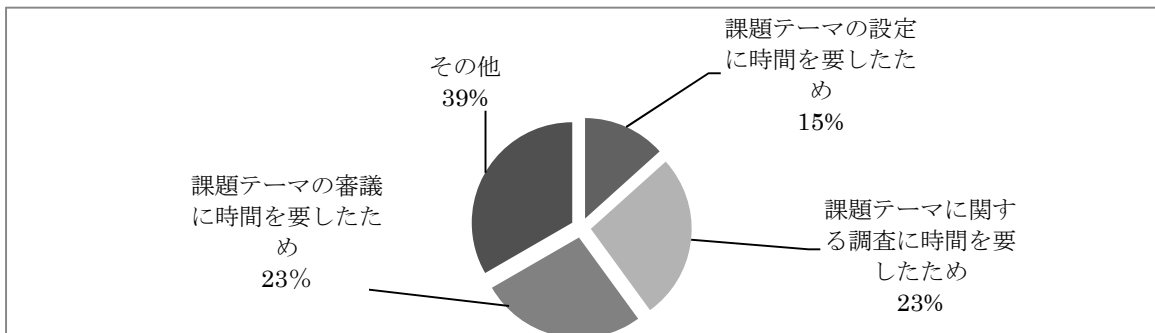
3年	4
4年	2
5年以上	0
計	6



ウ 短いと思った理由(複数回答可)

(件)

課題テーマの設定に時間を要したため	2
課題テーマに関する調査に時間を要したため	3
課題テーマの審議に時間を要したため	3
その他	5
計	13



(その他)

- ・ 課題テーマの審議（課題解決の提言）までなら2年間でちょうど良い。ある程度の実行（課題解決策のモデル的実行）までやるなら3年間で望ましい。その場合、提言までと実行からを部会長、メンバー構成などを新しくして進めるなど、マンネリ化防止策の導入が必要だと思う。
- ・ 価値観の共有が難しかった。
- ・ もっと調査、視察の時間が欲しい。
- ・ 提案したテーマの実証することも必要
- ・ 1年目は区民会議そのものが分かるのに時間が掛かる。

(5) 自由意見

【区民会議委員の再任について】

- ・再任が可能なので、任期は現行で十分と思う。(2件)
- ・再任可能期間の延長を考えて欲しい。
- ・人気を続ける人(再任)が多いようなら、任期は3年間でもよい。
- ・委員の任期も大事だが、組織は再任新任の数、区長推薦、団体推薦の数などを工夫考慮したい。

【取組状況の報告について】

- ・取組状況の報告で時間が掛かり、意見交換の時間が少なくなったのは残念です。パワーポイントの資料も配られているので報告者の時間管理をしっかりとて欲しい。(5件)
- ・各区の区民会議における課題テーマに関する発表内容を主に時間を取ってもらいたい。

【7区区民会議委員の意見交換】

- ・意見交換の時間が短く、意見交換のテーマが漠然としていたため、深い議論にならなかった。時間を多くとったり、進行役がテーマを絞ったりして欲しかった。(5件)
- ・自区区民会議活動をPRしたい。他の区に広めたいという意識が強い参加者が多かった。
- ・意見交換テーマが不明確なため、進行役がとても苦勞されていると感じた。
- ・地域課題の取り上げが、ソフト面に偏り過ぎています。共通課題として防災が多く取り上げられているので、市民参加の面で各区に「防災会議」を設置してはいいか。
- ・各区の課題地域性も分かり良かった。もう少し各区委員との話し合いの時間が必要。
- ・このような意見交換会は是非継続してください。
- ・いろいろなお話しが伺えて良かったです。

【市長と区民会議委員の意見交換について】

- ・市長とのQA時間を十分に取って欲しい。
- ・市長の意見を聴けたのが良かった。
- ・市長の元気な発言は力になった。

【開催時期・時間・場所】

- ・年度末は避けて欲しい。(3件)
- ・もっと早い開催時間にして欲しい。(2件)
- ・開催場所は中原区がいい。(2件)
- ・開催時期的は今頃がいい。
- ・開催場所の中原区までが遠い。

【感想・その他】

- ・大変参考になりました。(3件)
- ・各区の特性や、区民会議の運営の違いを知ることが出来た。(2件)
- ・会議だけでなく、委員がもう少し調査活動などに参加したらいい。
- ・区民会議の目的機能の明確化を急ぐべきだと思います。
- ・区民会議は非常に知名度が低い。それは実績が明確に出されていないからだ。提案書は素晴らしいが、実績が一向に上がらない。いい案には予算を付けて実行できるように区を挙げて集めるべきだ。
- ・政令指定都市の総合区の設定・区の権限強化の動向に合わせ、区民会議のあり方を検討するべきと思う。各区の根元的課題を解決する取組へ。
- ・区役所の担当の皆様御苦勞様です。

アンケート以外にも、次の反省点、改善点をいただきました。

- ・各区取組状況において、パワーポイントを利用したにも関わらず説明に時間が掛かり時間を超過したことから、報告者と事務局の事前調整等をしっかりと報告は要点のみの説明に絞り、報告者の演壇に時計があることを周知し、司会者が予定時間の5分を経過したら注意するべき。
- ・7区区民会議委員の意見交換の運営において、自己紹介シートが用意されていたので、自己紹介に時間を費やさないように、また、意見交換テーマから離れた発言に対して進行役が軌道を修正するべき。

いただきました御意見に関しては、今後の区民会議や区民会議交流会を検討する中で参考にさせていただきます。

御協力いただき、ありがとうございました。

区民会議交流会事務局 市民・こども局区政推進部区調整課

区民会議交流会次第

平成26年1月22日（水）
18時00分～19時50分
中原区役所5階会議室

- 1 開会の挨拶

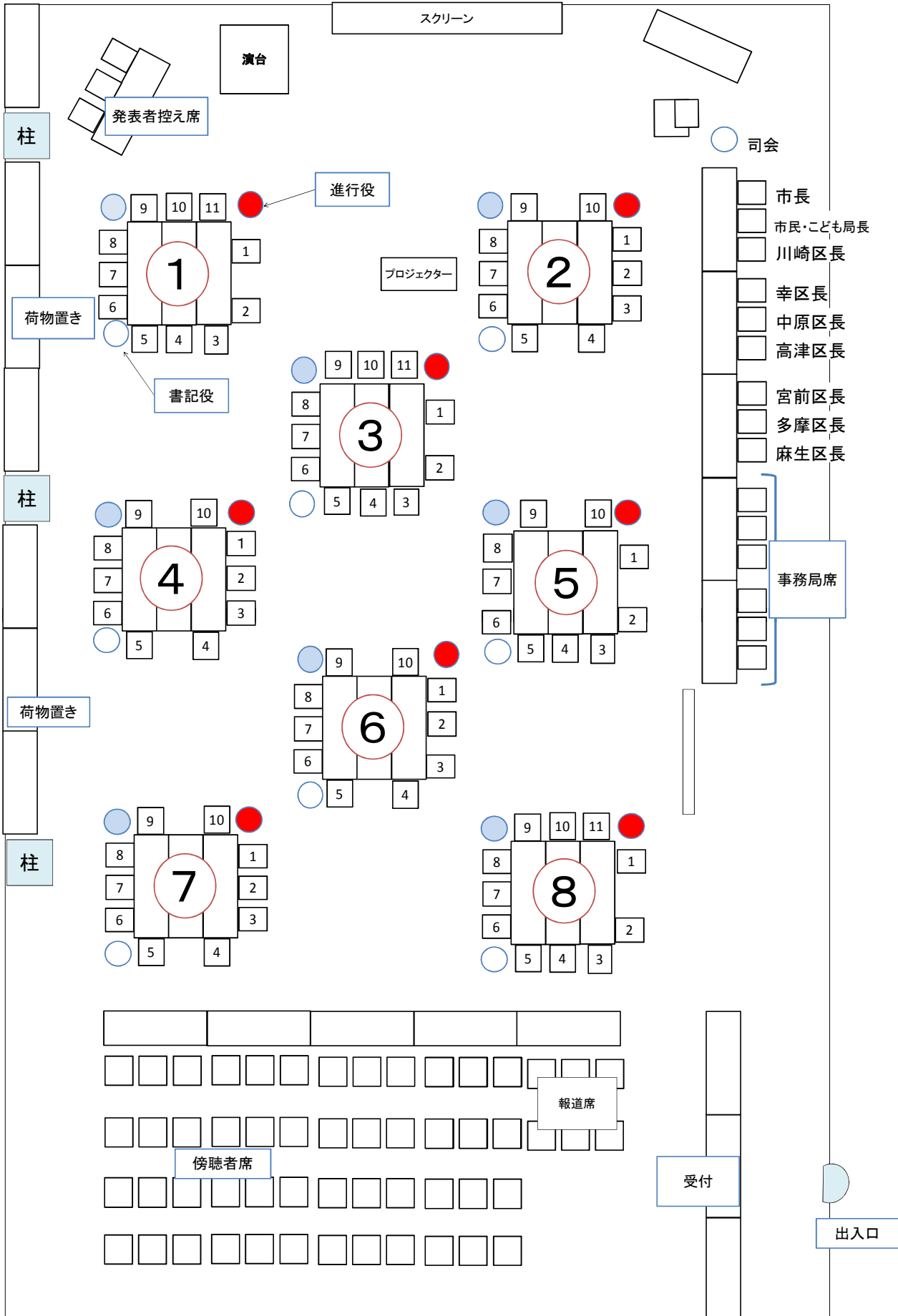
- 2 取組状況の報告

- 3 7区区民会議委員の意見交換
～たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか～

- 4 市長と区民会議委員との意見交換

- 5 閉会の挨拶

区民会議交流会座席表



第4期区民会議：「平成25年度区民会議交流会」参加者名簿【一覧表】

(敬称略・五十音順)

区	氏名	グループ	区	氏名	グループ	区	氏名	グループ	区	氏名	グループ
川崎	あいはら あきら 藍原 晃	1	中原	あおき ひでみつ 青木 英光	2	高津	えんどう かつたろう 遠藤 勝太郎	5	多摩	あべ しゅうじ 安倍 修司	1
川崎	あらい トキ子	6	中原	いしい やすあき 石井 康昭	7	高津	こみや ひでき 小宮 秀樹	1	多摩	あらい せいいち 荒井 精一	4
川崎	あらい かずなり 新井 一成	8	中原	いたくら とおる 板倉 徹	8	高津	こん しゅんいちろう 金 俊一郎	4	多摩	いしばし よしあき 石橋 吉章	8
川崎	いしわた かつろう 石渡 勝朗	3	中原	いなとみ まさゆき 稲富 正行	3	高津	きまこ まさえ 笹子 まさえ	8	多摩	おおつ つとむ 大津 努	3
川崎	いわせ きぬよ 岩瀬 絹代	2	中原	うめはら ひでき 梅原 英毅	6	高津	さとう ただし 佐藤 忠	2	多摩	こづか ちづ子 小塚 千津子	6
川崎	てらお ういち 寺尾 宇一	4	中原	おかもと 治子 岡本 治子	5	高津	とみた まこと 富田 誠	7	多摩	つじの かつゆき 辻野 勝行	2
川崎	とむら まさふさ 戸村 正房	7	中原	おぎ まごさぶろう 尾木 孫三郎	1	高津	よしだ ゆたか 吉田 豊	6	多摩	とだか じんこ 戸高 仁子	7
川崎	はら ちよこ 原 千代子	8	中原	かわつれ まさひさ 川連 昌久	5	区	氏名	グループ	多摩	はいじま ゆみ 配島 裕美	3
川崎	ふじおか れいこ 藤岡 玲子	2	中原	そりまち みつひろ 反町 充宏	2	宮前	おおた きみこ 太田 公子	2	多摩	ふじわら つかさ 藤原 司	1
川崎	もりわき たくろう 森脇 卓郎	5	中原	ただの あやこ 但野 文子	8	宮前	おおつき みきお 大槻 幹雄	8	多摩	ほその たかみ 細埜 隆己	5
川崎	よしの ちきお 吉野 智佐雄	4	中原	つかもと りり 塚本 りり	4	宮前	おおむら こうへい 大村 康平	6	多摩	ほんだ まきのり 本多 正典	6
川崎	よねやま みのる 米山 実	5	中原	とみおか もたろう 富岡 茂太郎	3	宮前	おか きいちろう 岡 毅一郎	3	区	氏名	グループ
区	氏名	グループ	中原	なかもり 中森ジュリアみどり	6	宮前	くろまわ かずゆき 黒沢 一之	2	麻生	いしい いくろう 石井 郁朗	4
幸	おしやま かねつ 押山 兼二	5	中原	なかやま ひろお 中山 博夫	7	宮前	さきき しょうじ 佐々木 良司	7	麻生	かねみつ ひでお 金光 秀尚	7
幸	かみや 厚子 神谷 厚子	2	中原	なりた たかこ 成田 孝子	7	宮前	なおもと たかこ 直本 享子	1	麻生	すがの あきら 菅野 明	6
幸	こいずみ みいこ 小泉 実意子	8	中原	はしもと さだこ はしもと 貞子	1	宮前	ひらい しょうこ 平井 賞子	1	麻生	すが原 けいこ 菅原 敬子	8
幸	こば としみつ 古場 敏光	1	中原	はしもと みつあき はしもと 満昭	4	宮前	ふくだ よしのぶ 福田 美亘	4	麻生	すくり ひであき 村主 英明	6
幸	こんどう たえ 近藤 多恵	3	中原	ふじしま とみこ 藤嶋 とみ子	3	宮前	ふじた しんご 藤田 信吾	8	麻生	たかくら ひでと 高倉 秀敏	1
幸	すずき なみえ 鈴木 奈美枝	1				宮前	やました ひろし 山下 浩	5	麻生	たかほし けいこ 高橋 慶子	5
幸	すずき みやこ 鈴木 都	4							麻生	たかほし つねゆき 高橋 庸之	2
幸	にし の きょういち 西野 恭一	7							麻生	たなか げんすけ 田中 元介	4
幸	はら きよこ 原 紀代子	7							麻生	はせがわ まりこ 長谷川 真理子	8
幸	はるた きみえ 春田 公江	3							麻生	ひがしかわ まさお 東川 禎男	5
幸	みほり はちろう 三堀 八郎	6							麻生	やまだ やすゆき 山田 安之	3
									麻生	よしだ けんじ 吉田 謙司	3

意見交換テーマ

「たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか」について

今年度の区民会議交流会では、市民が、暮らしやすい地域社会をつくるために、市政に主体的にかかわり、行動することという「参加」に焦点を当て、「たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか」を意見交換のテーマとしました。

意見交換に当たり、テーマについて幅広い観点からお話いただくことを想定しておりますが、大きなテーマとなりましたことから、次の様な視点を例示させていただきましたので、ご参考にいただければ幸いです。

1 「市民が実践の担い手となるには」

- ・市民に実践の担い手となっていただくためには、どのようにすればよいでしょうか。
- ・参加を進める工夫や取組は、どのようなものがあるでしょうか。

など

2 「区民会議提案を受けた住民参加の取組を継続させるには」

- ・区民会議提案事業などの地域課題解決に向けた取組を継続させるためには、どのようにすればよいでしょうか。
- ・取組を地域に浸透させるための手法などは、どのようにすればよいでしょうか。

など

【MEMO】

第4期各区区民会議 調査審議の状況

(平成25年12月27日現在)

項目 区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・ 継続	調査審議の状況	課題解決に向けた方向性
川 崎 区	みんなの まちづくり 部会	地域で身近な防災力 (歴史、環境から学ぶ)	防災・地域 交通	災害時に安全に避難できるよう、川崎 区の歴史や環境の視点から防災につ いて、審議調査していく。	新規	○区役所危機管理担当へのヒアリングを実施 ○臨海部の防災対策の現状を把握するため、東扇島にある基幹的広域防災拠 点や市巡視船から臨海部の工場地帯を視察 ○海拔表示、避難所の位置表示や津波の時の避難場所について検討 ○海拔表示板の設置を区に提案 ○防災出前講座実施の検討	○海拔表示、避難場所への誘導表示、津波時の避難場所 について検討 ○地域と協働で海拔表示板を設置
		コミュニティバス導入の促 進(観光と福祉の向上)		誰もが安全に安心して移動できるよう、 観光や福祉の視点を入れたコミュニ ティバスの導入について、調査審議し ていく。	継続	○第3期で実施した「コミュニティバス」に関するアンケート結果を分析 ○地域交通導入までの取組手順を調査 ○バス事業者に既存バス路線の変更申請をすることを確認 ○審議ルートの試走 ○区地域交通に関するアンケートを実施 ○既存バス路線の変更案の検討	○コミュニティバス導入について再検討 ○既存バス路線の変更案の検討
	すこやか・ 共に生きる 部会	地域における健康の推進	健康	予防接種、住民健診等の受診率の向 上について、調査審議していく。	新規	○小・中学生の保護者向け予防接種に関するアンケートの調査概要を検討 ○予防接種に関するアンケート内容を検討 ○予防接種に関するアンケートを実施	○予防接種に関するアンケート内容の検討 ○アンケート結果を基にした予防接種の接種率向上の手 法の検討
		子ども地域で支える、子ど もの生きる力	子育て	子育てや子どもが育つ環境づくりのた め、子育て支援、地域での子育ての場 づくり・子どもの生きる力をどう育て ていくか、調査審議していく。	継続	○他都市の子ども支援策の先進事例を調査 ○子どもを地域で支える活動団体同士の連携を検討 ○地域で子どもと大人が世代間交流できる取組の検討 ○子どもを地域で支える活動団体による会合を試行開催	○引き続き、他都市の子ども支援策の先進事例を調査 ○子どもを地域で支える活動団体同士の情報の共有や連 携の検討 ○世代間交流の取組内容の検討
		外国人市民も住みやすいま ちづくり	外国人市 民	外国人市民へ十分な情報が行き届く 仕組みについて調査審議していく。	新規	○外国人市民へ情報提供する区役所窓口の職員への調査を実施 ○窓口職員へ行った調査結果を基に課題解決策を検討	○外国人市民に健康や防災等の情報を効果的に伝える 手法の検討 ○多言語に対応した問答集作成の検討
	幸 区	暮らしの 安全部会	地域における防災力の向 上	安全・安心 まちづくり	中学校区レベルでの地域防災力の向 上について審議していく。	新規	○防災に関する各委員の意見を整理 ○区役所危機管理担当へのヒアリングを実施 ○取組の方向性としては「自助に関する取組」「エリア別の防災マップの作成」 「防災訓練への中学生の参加」の3点があがり、「マイ防災マップ」づくりワー クショップの実施に向け審議 ○幸消防署が実施する区内中学校での災害図上訓練(DIG)を視察 ○日吉中学校と連携し、マイ防災マップづくりワークショップを試行実施
自転車の交通ルール順 守			自転車ルールの順守について審議し ていく。		継続	○自転車に関する各委員の意見を整理 ○具体的な取組内容について審議 ○幸区リレーカーニバルにおいてスタントマンのパフォーマンス(スケアード・ス トレート方式)による交通安全教室を開催	○スポーツチームとの連携や公用車の活用による、自転 車ルール順守に係る啓発活動の実施 ○自転車交通安全教室におけるスケアード・ストレート実 施の推進
地域の見守り体制づくり		高齢者・地 域コミュニ ティ	誰もが安心して住み続けられる地域社 会の実現に向け、孤独死・孤立死など を防ぎ、地域全体で見守る体制づく りを推進していくための方策等を審議し ていく。	新規	○審議テーマを選定するにあたり、委員の意見を項目ごとに整理し、選定基準 を設け投票を実施 ○最も意見が多かった「高齢者の見守り」について、区高齢・障害課と地域保健 福祉課にヒアリングを実施 ○審議テーマを「地域の見守り体制づくり」とし、具体的な取組を検討するにあ たって、区内における主な見守りの取組を整理し、実態を把握するため関係団 体にヒアリング調査を実施 ○見守り活動のポイントや行政等との連携方法、地域における見守り活動の実 践事例をまとめた冊子の作成等について提言することを目指し審議	○ひとり暮らし高齢者等の異変を見つけた場合の対処方 法等をまとめた冊子の作成・活用 ○見守り活動に関する相談窓口や情報発信の充実	

第4期各区区民会議 調査審議の状況

(平成25年12月27日現在)

項目 区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・ 継続	調査審議の状況	課題解決に向けた方向性
中原区	課題調査部会・運営部会	絆を深めて支え合う防災体制づくり	安全・安心まちづくり	新旧住民や多世代住民の交流を図り、住民間の結びつきを強めながら、地域の防災力向上を目指す。	新規	○取組の方向性として、「個人を対象とした啓発活動や情報提供」、「家庭内での自助の普及に向けた取組」、「地域における防災訓練の実施と地域内の人材育成」、「自主防災組織、避難所運営会議などの活動の充実」、「大型集合住宅における防災対策」を挙げた。 ○重点を置く取組として、「地域特性を踏まえた防災イベントを行う」、「活発な活動をしている自主防災組織をもっと広める」、「防災情報をもっと区民に伝える」の3点を定めた。 ○課題解決に向けた取組事項を決定した。	○区役所内に防災情報コーナーを設置 ○転入者に対する情報伝達 ○防災イベントの実施 ○大型マンションの自主防災組織結成推進 ○外国人市民の防災への理解向上
	課題調査部会・運営部会	子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり	子育て	中原区の特徴である住民の平均年齢が低く、子どもたちが多くことを踏まえた子育て支援策を審議する。	新規	○取組の方向性として、「乳幼児を持つお母さんの居場所、交流の場づくり」、「健診時に合わせたイベントの開催」、「参加しやすい子育てサロンづくり」、「子どもを面倒見てくれるボランティアを発掘・育成」、「外国人のお母さんの相談窓口としての国際交流センターの活用」などについて審議を行った。 ○課題解決に向けた取組事項を決定した。	○ママカフェの区内各所での開催 ○保育園の園庭開放の活用 ○子育て支援者養成講座の修了者登録制の導入 ○大学生等の参加の促進 ○中原図書館の読み聞かせ会とのタイアップ ○プレママ、プレパパを対象にした講座等の充実 ○外国人市民向け講座等での情報提供の充実 ○医療通訳派遣制度の周知 ○ホームページの載せ方の工夫 ○中原区の子育て施策を紹介する動画の充実
	課題調査部会・運営部会	中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流	地域コミュニティ	今ある中原区の魅力を広げ、伝える方法を検討する。また、区の魅力を住民同士の交流や多世代交流等の地域コミュニティづくりに活用する方法を検討する。	新規	○取組の方向性として、魅力を活かした地域住民の交流に関わる取組について、中原区の魅力資源を活用した新旧住民や多世代交流の取組内容について審議を行った。 ○情報発信の方法の検討として、新旧住民や多世代交流の取組についての情報発信方法を検討する。	1月28日開催の区民会議で決定する。
高津区	企画運営会議(第1節)	地域防災	安全・安心まちづくり	第2期区民会議における取組や提言を踏まえ、地域防災に関する調査審議を行い、具体的な取組につなげていく。	継続	○全体会議や企画運営会議において第4期のテーマを決定、今後は具体的な取組について検討していく。 ○2月19日に区内の防災備蓄倉庫の実地調査を実施 ○7月1日に調査審議結果に基づく提言書を区長に提出(調査審議終了)	○第2期で作成した「防災マップ」の改訂(平成25年3月発行) ○区民会議の取組をアピールすると同時に防災についての啓発を行うパンフレット「我が家の防災力チェック」作成(平成25年3月発行) ○「たかつ あん☆あんフェスタ2013(平成25年8月24日開催)」に参加。①ブースによる区民会議の活動紹介、②「子連れアクティブ防災講座」の実施、③講座「女性の視点を活かして『みんなで考える防災』」の実施
	企画運営会議(第2節)	自転車の交通安全	安全・安心まちづくり	自転車の交通安全について調査審議を行い、具体的な取組につなげていく。	新規	○危機管理担当による交通ルール等の勉強会の開催 ○自転車の安全運転に関する調査(実地調査)の実施(12月9日)	○地域イベントにおける普及啓発活動(10月6日) ○調査審議結果を踏まえた区役所・警察への提言(予定) ○区民会議フォーラムにおける講演会の開催(予定)
宮前区	環境を活かした人づくり部会	身近な環境を活かして人を育てる	地域コミュニティ	公園をコミュニティの核として活用することで、地域で活躍する「人づくり」をする。	新規	○24年10月・11月に区内で緑に関する活動が行われている現場へ行き、活動されている方からお話をいただいた。 ○花と緑・公園・川・健康づくり等様々なテーマが挙げたが、区民に身近な環境である公園を優先的に議論することとした ○公園管理・活用に向けた環境整備、公園活用、公園維持管理の3つを提案書としてまとめた。	提案に基づき示された以下の具体的な取組などを推進し、課題解決へとつなげる。 ・公園関係団体のネットワーク「宮前区マイパークネット(仮)」の設置 ・公園に関する情報の発信・共有 ・樹木プレート設置、冒険遊び場推進、公園体操拡大、ネイチャーゲーム普及など ・まちづくり協議会と連携しての、地域が主体となった公園管理の促進
	心を育てる地域と世代部会	地域間・世代間の交流を深める	地域コミュニティ	多様な人材・世代が地域で交流し、連携する場を創出することで、健全育成や文化・体験の共有と伝承につなげ、区民の心を育む	新規	○区内全17小学校にアンケートを実施。授業や課外活動、学校開放、行事等で地域と学校がどのようなつながりを持っているか調査 ○九九暗唱ボランティアグループ「風の泉」へのヒアリング・活動見学 ○区学校支援センターへのヒアリング ○世代間交流に取り組む諸団体へのサポート、既存イベントへの世代間交流機会の付加、世代間での対話につながる企画と実践、区誕生40周年等に向けたアーカイブの4つを提案書としてまとめた。	提案に基づき示された以下の具体的な取組などを推進し、課題解決へとつなげる。 ・世代間交流に資する市民活動へのサポート ・世代間交流のキャンペーン展開 ・世代間対話する場の企画 ・アーカイブ事業の実施

第4期各区区民会議 調査審議の状況

(平成25年12月27日現在)

項目 区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・ 継続	調査審議の状況	課題解決に向けた方向性
多摩区	自然災害部会	いざという時に助け合えるしくみづくり	安全・安心まちづくり	多摩区の安全・安心なまちづくりのため自然災害対策について審議していく。 ●多摩区版「備える。かわさき」の作成 ●身近な防災マップの作成 ●中・高・大学生との連携	新規	○自然災害に関する具体的な対策、地域の取組等について意見交換 ○防災に関する市の取組、自主防災組織等の地域の取組について勉強会を開催 ○課題解決に向けた方向性、具体的な取組の検討に向けて、現状と課題について再確認、検討 ○自然災害への備えとして、「自助」「共助」「公助」を整理し、いざという時に助け合える体制づくりについて検討。 ○情報の周知、身近な防災マップの作成、生徒・学生との連携といった大きく3つのテーマについての取組を検討している。 ○区民会議フォーラムで取組について区民から意見を聴取。 ○ワークショップ形式で身近な防災マップを検討。	(予定) ○多摩区版「備える。かわさき」の作成 ○身近な防災マップの作成 ○中学生・高校生・大学生との連携
	コミュニティ部会	顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する	地域コミュニティ	色々な世代が交流し、コミュニティが活性化していくためにはどうしたらよいか審議していく。 ●地域に参加してもらおうしかけづくり ●地域コミュニケーションの再生	新規	○コミュニティをめぐる各委員の課題認識、具体的な対策等について意見交換 ○地域のつながりの場の1つとして、こども文化センターを現地調査 ○課題解決に向けた方向性、具体的な取組の検討に向けて、現状と課題について再確認、検討 ○コミュニティの活性化に向けて、地域活動に参加してもらおうためのしかけ等について整理し、検討。 ○地域に参加してもらおうしかけづくり、地域コミュニケーションの再生といった大きく2つのテーマについての取組を検討。 ○区民会議フォーラムで取組について区民から意見を聴取。 ○人と人との交流を促進するイベントをモデル的に実施。 ○地域資源を活用した食育イベント(里芋堀り)を見学。	(予定) ○イベントカレンダーの作成 ○多様な趣味にふれあえるしかけ ○地域の特性を活かした絆が生まれるしかけ ○あいさつ運動の展開
麻生区	安全・安心のまちづくり部会	大地震から助かる命を守る	安全・安心まちづくり	公助が立ち上がるまで、自助・共助により助かる命を守ることが重要であり、「防災」のうち、事前対策と緊急避難に関する部分から調査審議を進める。	新規	○自助・共助・公助・企業市民ごとに、現在実施されている対策及び今後考えられる対策を洗い出し、事前対策と発生後の緊急対応にわけて集約した具体策検討シートから、取り組むべき3つの最優先テーマと2つの優先テーマを絞り込み、活動計画に沿って進めていく。 (最優先テーマ)1. 家屋の倒壊防止 2. 家具の転倒防止 3. 火災予防・火事発生への対応(優先テーマ)4. 災害時要援護者等への対応 5. 負傷者、生き埋め者の救助 ○フォーラム～大地震から助かる命を守る～を9月7日に開催 ○家具転倒防止のための固定工事を中心にモデル事業を実施	(予定) ○モデル事業の結果評価、アンケート結果の検証 ○普及・啓発資料案の作成 ○防災対策の推進に向けた提言の整理、取りまとめ
	若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会	子育てしやすい環境づくり	子育て・若い世代	将来加速する高齢化、若者の減少を背景に、「若者が住みたくなる魅力あるまちづくり」を必要と捉え、「子育てしやすい環境づくり」と「芸術・文化のまちづくり」の2つのテーマについて審議を進める。	新規	○既往調査・統計データの集約・分析を行うとともに、基礎調査として子育て世代を対象にアンケートを実施し、若者(子育て世代、大学生・高校生、子ども)のニーズ、若者を取り巻く現状と課題を抽出。その結果を受けて、子育て自主グループやサロン、ボランティア団体等へヒアリング調査を実施 ○ヒアリング結果を元に提言の方向性を審議。スローガン「子育てするなら麻生区で」と3つのキーワード「安心・楽しい・助かる」を選定。これらの言葉を形にするための方法として子育てフェスタを開催する。	(予定) ○子育てフェスタ協力団体への説明会開催 ○第1回「あさお子育てフェスタ」の開催 ○子育てフェスタ実施後の検証 ○課題解決への提言の検討
	若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会	芸術・文化のまちづくり	芸術・文化		継続	既往調査・統計データによる「しんゆり・芸術のまち」に関する現状と課題を把握・分析し、第3期区民会議の提言内容について行政の取り組みを確認 ○麻生区内で活動している芸術団体、大学等へ若者や子どもなど多くの市民が楽しめる芸術・文化のまちづくりについてヒアリングを実施 ○ヒアリング結果を元に第3期区民会議提言内容のフォローアップと第4期区民会議新規提言(子育てフェスタ開催等)の二つの方向性で提言を審議する。	(予定) ○ヒアリング検証と第3期提言内容のフォローアップとともに、若者や子どもの視点を取り入れた新規提言の検討(あさお子育てフェスタでの実施検証)

平成25年度区民会議交流会アンケート

本日は区民会議交流会に御出席いただきまして、ありがとうございました。

今後の参考にいたしますので、以下の項目についてお答えくださいますようお願い申し上げます。

今回の交流会は、どの企画に期待して来場されましたか。(複数回答可)

取組発表 委員意見交換 市長意見交換 懇親会

1 今回の交流会の企画についての感想をお聞かせください。

◆交流会（全体）（交流会全体の企画構成について感想をお聞かせください）

大変よかった よかった どちらでもない あまりよくなかった

◆取組発表

大変参考になった ある程度参考になった どちらでもない 参考にならなかった

◆委員意見交換（たくさんの市民がまちづくりに参加するにはどうすればよいか）

大変参考になった ある程度参考になった どちらでもない 参考にならなかった

◆市長意見交換

大変参考になった ある程度参考になった どちらでもない 参考にならなかった

2 交流会のあり方について伺います。

◆今後も区民会議交流会は必要と思いますか。また、その理由をお聞かせください。

必要と思う

◆必要と思った理由をお聞かせください。(複数回答可)

委員同士の情報交換ができる

他区の区民会議について学び合うことができる

課題解決の成功例などを知ることができる

その他（のため必要）

必要と思わない

◆必要と思わない理由をお聞かせください。(複数回答可)

他区委員との交流は必要ないと思う

他区における課題解決の成功例は地域事情が違うため参考にならない

他区の事例を他の方法で知ることができるため

その他（のため必要ないから）

裏へ続きます。

3 区民会議の任期について伺います。

◆区民会議委員の任期は2年間としていますが、いかがでしたか。

ちょうど良い

長い

◆長いと思った理由をお聞かせください。(複数回答可)

課題テーマの調査・審議が早く終わったため

委員として拘束される期間が長いため

その他 ()

短い

◆適当と思われる年数についてお聞かせください。

3年 4年 5年以上

◆短いと思った理由をお聞かせください。(複数回答可)

課題テーマの設定に時間を要したため

課題テーマに関する調査(現地視察や関係者への聴き取り等)に時間を要したため

課題テーマの審議(解決への方向性の検討等)に時間を要したため

その他 ()

4 御意見・御感想などがございましたら、御自由に御記入ください。

来年度以降の開催について／開催時期・場所・時間 など

御協力ありがとうございました。この用紙を机の上に置いてお帰りくださいますようお願いいたします。